

中央アルプス縦走報告書

2013/10/11(金)~10/14(月)

メンバー CL:松尾(3) SL:山本(2) 食料:井部(1) 内藤(1) 装備:松浦(1)

11日(金) アプローチ

21:04 六甲道発の電車でアプローチ。大阪駅、京都駅で内藤、松浦と合流。松尾、山本の音楽文化に対する興味の薄さに衝撃を受ける。近江長岡駅で下車し、駅舎の隣にテントを張る。近江長岡駅は夜間無人駅であったため改札口に駅員はいなかった(意味深)。いべりん大勝利。山本、ハイドレーションの蓋を忘れる。0時30分頃就寝するが、20分に1回貨物列車が通過するため熟睡できず。

12日(土) 入山

16:00 千畳敷~16:40 宝剣山荘~17:00 頂上山荘

5:20 起床。6:16 発の電車に乗って名古屋駅で途中下車し、井部・内藤は切符購入。松尾、山本、松浦は駅近くのすき家で朝食。8:16 発の電車に乗ってアプローチ再開。塩尻駅では土産屋で地ワインを試飲させて頂いた。13:33 駒ヶ根駅着、14:00 発のバスでしらび平へ。鈍行電車の旅は松尾以外には不評のようで響燈の大安売りであった。14:45 しらび平着。ロープウェイは良心的な1時間待ち。15:45 千畳敷到着。残念ながら紅葉は葉が吹き飛ばされていたり完全に变色していなかったりで昨年と比較すると微妙。千畳敷では数か月前の韓国人グループの遭難事故の影響で登山届の記入が義務化されていた。監理員に翌日の木曾駒ヶ岳~空木の行程を認可させるのに少し時間がかかった。16:00 千畳敷発で登山開始。寒暖差の影響で1回生が鼻水に苦しむ。松尾、軽い頭痛。宝剣山荘~中岳~頂上山荘間は風が強く、帽子・グローブが無いとかなり寒かった。17:00 頂上山荘着。テント場はほぼ満員状態。斜めってる場所に無理やりエスパースを建て、その隣には山本がツェルトを建てる。18時過ぎからフライに霜が張り始めた。風も強く夏合宿を彷彿とさせる。本日の夕食は井部考案の石狩鍋のはずが、酒粕が足りなかったためただの味噌鍋になった。山本が言った通り、アルミ鍋の方が米が美味しく炊ける気がする。20時過ぎには水場の水道が凍結し、翌日の行動水が補給できなくなる。内藤の腹の調子が悪いようだ。就寝態勢に入るものの、風でテントが煽られ睡眠を妨げられたので天体観測。

13日 晴れ 木曾駒ヶ岳~宝剣岳~桧尾岳~桧尾避難小屋

8:40 頂上山荘~9:15 宝剣岳~11:20 濁沢大峰~12:20 桧尾岳~12:30 桧尾避難小屋

4:00 起床。5:30 出発の予定であったが、水場が依然として凍結しているため復活待ち。5:40 分頃に木曾駒ヶ岳頂上アタック。去年はガスがかかっていたが今回は日の出までバッチリだ。テントに戻ってからは大富豪で時間を潰す。8:00 過ぎに水場が回復の兆しを見せたので水を汲むが、途中で再び流水ストップ。また水タンク(30)の水漏れが発覚。桧尾岳で行程を中止することにして、8:40 頂上山荘出発。南岳の巻き道は岩稜だが大したことは無い。宝剣山荘~宝剣岳は鎖場になっているが通過は容易。頂上は混雑で昨年のようにオベリスクの上に登るのは不可能だった。頂上で軽く読図を行い、9:30 出発。宝剣岳~極楽平は、1箇所だけある劔岳一般道のカニのタテバイを彷彿とさせる箇所以外は容易。しかし岩が濡れている時に通過するのは危険だろう。極楽平~濁沢大峰までは普通の登山道。風も弱く快適な山歩き。濁沢大峰~桧尾岳は、例えるなら穂高岳の大キレットの南岳~長谷川ピーク間に似た稜線歩きの後急な下り、そして登りが続く。松浦が少し遅れ気味だ。桧尾岳から避難小屋までは5分かからない。水場は避

難小屋から 10 分かからない場所にある。小屋の隣にテントを張り、南アルプスを眺めながら、先に小屋に到着していた慶應ワングル部 OB の方と談笑した(彼らは空木平避難小屋の幽霊を恐れて空木岳に行けなかったらしい)。本日の夕食はウィンナーと獅子唐のカレー。獅子唐で少し辛くなったが美味しかった。日が暮れると星空、駒ヶ根市の夜景の両方が愉しめた。松浦が風邪気味。

14 日 晴れ 桧尾岳避難小屋~登山口

5:03 桧尾岳避難小屋~6:50 赤沢の頭~8:20 登山口

3:30 起床。風が吹くため外は寒い。トイレが混んでいたため出発が少し遅れる。下りは最初稜線上で、徐々に稜線の側面のトラバースになり、最後は灌木帯を抜ける。稜線上の下りは岩や木の枝がゴツゴツしており歩きにくい。途中で日の出を拝む。内藤のペースが少し遅い。靴紐の結びが緩かったようだ。エアリアで書いてあった水場はただの伏流水であった。もうすぐ登山口に着くあたりの最後の登山道で、井部が谷側に足を滑らせ 3m ほど滑落。怪我は無し。登山口から 3 分ほど車道を下った所に桧尾橋というバス停があった。バス停でバスを待っていた所、黒い乗用車が車道を走ってるなどと思ったら熊だった。熊は川の方へ下りて行った。バスに乗ってこまくさの湯へ向かい、ソースカツ丼を食べ、駒ヶ根駅に戻り電車に乗るも、岡谷での乗換に失敗し六甲道着が 20 時台から 23 時台になる。項垂れる山本と何故か嬉しい松尾。塩尻駅では地ワインを買って駅のホームで軽く杯酌。電車嫌だ嫌だと文句を浴びながら神戸に帰った。

反省点

- ・アプローチは特急使うべきだった←テント場に早く着くので、テント建設に苦勞することも水の凍結に苦しむことも無かった。夜行バスという手段もあった。
- ・計画書提出の不備←警察を迅速に動かすためには、①県警(今回で言えば長野県)、②山のある市町村(今回で言えば駒ヶ根市)、③登山口(今回で言えば千畳敷)の 3 箇所に登山届を出す必要があると言われた。今回満たしていたのは①、③だけだった。
- ・帽子が必要←熱中症を防ぐためではなく、頭の防寒のために必要だった(忘れたのは松尾、内藤)
- ・水タンク(3ℓ)が水漏れ←事前の確認不足
- ・共装の医療・非常パックの検討←個装で持っている物(薬等)はいらぬのではないか? もっと中身を削れるのではないだろうか?
- ・山に入る前にトレーニングすべき←今回の被害者は松浦(夏合宿明け 1 発目)。9 月の穂高と同じミスをした。
- ・登山道での滑落(井部)←トラバースの登山道では山側を歩きましょう。
- ・ハイドレーションの蓋忘れ(山本)←そういやお前八ヶ岳でもプラティパスの蓋忘れてなかったっけ?